

## 八代農業高等泉分校学校泉分校 令和4年度(2022年度)学校評価表

<b>1 学校教育目標</b>	
<b>【校 訓】</b>	礼節を重んず 勤労を尚ぶ 誠実に生く
<b>【教育目標】</b>	自ら学び考え、未来を創造する魅力ある人材の育成
<b>【教育スローガン】</b>	「新たな一步を踏み出そう！」 ～プラス1 より高く より前へ～
<b>【重点目標】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) すべての教育活動における課題解決の推進と危機管理の徹底</li> <li>(2) 学校・学科等の魅力ある教育の深化</li> <li>(3) 効果的な情報発信と生徒募集への取組の推進</li> <li>(4) 効率的、効果的、教職員の協働による教育活動・校務処理の推進</li> <li>(5) 安心・安全で差別やいじめのない学校づくり</li> <li>(6) 特別な支援を要する生徒への全教職員共通理解による取組の推進</li> <li>(7) 地域の資源や人材を最大限に活用した教育活動と教職員研修の推進</li> </ul>
<b>【教育方針】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>(1) 地域の誇れる生徒の育成 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 端正な制服と礼儀正しい生徒(礼節)</li> <li>イ 目的達成に向けて努力する生徒(勤労)</li> <li>ウ 自立心を持ち誠実に行動する生徒(誠実)</li> <li>エ 命を大切に作る心を持ち他人(ひと)の痛みのわかる生徒</li> <li>オ 文化部・運動部・生徒会・学校農業クラブ・学校家庭クラブ活動に積極的に取り組む生徒</li> <li>カ ボランティアや地域行事等へ積極的に参加し地域貢献ができる生徒</li> </ul> </li> <li>(2) 地域に誇れる教職員への支援 <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 八農泉分校スクール・ミッション具現化のための教職員間の意思疎通と充実した取組</li> <li>イ 進路指導を核とした学習指導、進学・就職支援体制の構築と取組の推進</li> <li>ウ ICTを活用した授業づくりの構築と取組の推進</li> <li>エ 普通教科・専門教科における最新の専門的な知識技術習得のための研修機会の支援</li> <li>オ 特別な支援を要する生徒の全教職員共通理解と情報共有に努め、保護者等や中学校、関係機関との連携を推進</li> <li>カ 研究授業等の活発化による、わかる授業、生徒が主体的に学べる学校づくりの推進</li> </ul> </li> <li>(3) 地域に誇れる学校づくり <ul style="list-style-type: none"> <li>ア 積極的な広報活動による「八農教育」情報発信の強化</li> <li>イ 幼・保・小・中学校、地域との教育交流の継続と深化</li> <li>ウ 積極的なボランティアや地元行事への活動参加による地域社会への貢献</li> <li>エ 安心・安全で差別やいじめのない学校づくり</li> <li>オ 掃除や整理整頓が行き届いたきれいな教育環境づくり</li> <li>カ 地域社会・住民に理解され愛される学校づくり</li> </ul> </li> </ul>

<p>2 本年度の重点目標</p> <p><b>【教育指導の重点】</b></p> <p>「認め、ほめ、励まし、伸ばす」教育行動指標を踏まえた教育の実現を目指して。人間尊重の精神をすべての教育の根幹におき、校長を中心とした指導体制のもと、生徒一人一人の教育的ニーズや学校評価等による課題の把握に努める。また、学校間及び学校と家庭・地域社会との連携及び協働を図るとともに、スクールミッションのもと、各学校の特色を生かしたカリキュラム・マネジメントを行い、生涯にわたって探究を深める未来の創り手として必要な「生きる力」の育成を目指す。</p> <p>(1) 確かな学力の育成と個に応じた指導の充実  (2) キャリア教育の推進と個性を生かす進路指導の充実  (3) 道徳教育の充実と命を大切にす心の育成  (4) 国家・社会の形成者としての資質の育成と国際社会に生きる日本人としての自覚の醸成  (5) 体力の向上、豊かなスポーツライフの継続、心身の健康の保持増進及び安全教育の充実</p>
---

**【 評価 】**

[A] 十分達成できている                      [B] おおむね達成できている                      [C] やや不十分である

[D] 不十分である

3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	目標管理	・教育目標及び重点目標の共通理解と生徒・保護者及び地域への周知	・教職員の理解度100%生徒・保護者の理解度90%以上	・校内掲示、職員会議、保護者会、広報誌等での周知を行う。HP、学校運営協議会等の活用の継続	B	・教職員の理解度100%（昨年度92.8%）、生徒の理解度86.2%（同89.3%）、保護者の理解度100%（同100%）であった。十分に理解され周知された。
	生徒募集	・募集定員の確保に向けての取組み ・取組みの見直し、創意工夫 ・組織的・効率的な取組み	・次年度入学者20人以上を目指し取組む ・具体的な取組みの工夫 ・具体的な魅力発信方法の工夫 ・「チーム」による取組 ・専門家の活用	・体験入学参加者確保 ・地域との交流連携事業 ・中学生の保護者・教員への魅力発信 ・HPの充実 ・情報発信の創意工夫 ・中学校訪問の徹底	A	・二度の体験入学を実施した。 ・中止となった交流活動もあったが、継続的な交流ができた。 ・毎日のHP更新や新聞等の記事掲載により、情報発信ができた。 ・個別の学校訪問数も増加し、個々に対し丁寧に対応した。 ・延べ70の中学校を訪問した。 ・「チーム」により、工夫・優先順位を明確にした。 ・7年ぶり20名以上の出願者。
	魅力化発信	・本校の魅力や特色を発信できたか ・発信方法の効率化を高める工夫を行ったか	・体験入学参加者確保 ・次年度入学者20人以上 ・外部からの具体的評価	・HP、パンフレット ・中学校等訪問 ・地域との連携 ・学校運営協議会の活用 ・スクールミッションの活用	A	・HPを日々更新することで学校の取組みを安定して発信できた。 ・メディアによる発信を活用し、分校の魅力を発信できた。 ・魅力化を発信するための学校パンフレット意外にリーフレットやアニメを活用した。
	教育的ニーズへの対応	・教育的ニーズへの新たな対応 ・ICTを活用した対応	・スクールミッションの活用 ・新教育課程に向けたカリキュラム編成 ・学校設定科目の見直し	・外部評価との整合性を確認 ・学校設定科目とその学習内容についての見直し ・ICTの具体的活用を全職員で取組む	B	・生徒、保護者、教職員、地域を対象とした学校評価アンケートを実施した。 ・各評価を今後活用する。 ・個に応じた教育や評価の在り方について教務部を中心に全教職員で検討している。

			・ICTの活用と工夫			・保護者理解については不十分なところがある。
	学校への適応指導の強化継続	・生徒が自身の目標をもって学校生活を送り本校において自己実現を目指す	・授業や学校に適応できる環境づくり ・校内における情報の共通理解 ・中途退学及び転学者を減らす対策の実施 ・個別支援の強化	・生徒情報の系統科 ・気付きと情報の共有 ・適応できる環境作り、個別対応の強化と継続 ・中学校やSC、SSWとの連携 ・教育相談部との連携	B	・生徒面談や家庭訪問、保護者との連携を緊密に行われ、教職員間での生徒情報の共有も日常的に行われ、支援や指導に生かすことができた。 ・心配される生徒はSCの面談を継続的に行い、保護者の面談も実施した。また、SC・SSW・児相・関係機関と連携し、ケース会議を実施することで課題解決を目指した。 ・昨年度に比べ、中途退学及び転学者数は同じである。
	業務改善	・学校行事の精選及び整理、見直し ・業務内容の見直しの推進 ・業務の負担感軽減と効率化への工夫	・学校行事の精選及び整理、見直し ・事務処理の簡略化 ・ICT活用 ・各教職員の意識改革	・学校行事の精選等 ・資料配布の削減や復命内容の簡略化 ・簡易決裁による事務処理の簡略化 ・ICTの活用	B	・規制が緩和され、通常の行事が開催されつつある。 ・ICTの活用と充実。 ・修学旅行が実施できた。 ・起案報告等の一部は簡易決裁とし、事務処理を簡略化した。 ・考査午後には研修等を原則入れないようにした。
	働き方改革	・業務改善と教職員の意識改革により、さらに本校教育の質の向上を図る	・業務改善への目標設定 ・徹底した意識改革 ・昨年度比減少を目指す ・出張等の削減 ・業務の分担の調節	・現状と課題確認 ・定期考査時の定時退庁 ・校外での会議や研修参加の精選 ・代休、特休の100%消化 ・年間15日の年休取得	A	・12月までの累計時間外勤務の全職員平均が昨年度36.27時間に対し、今年度32.38時間となった（-3時間49分）。 ・8月の同時間は13時間39分と希に見る時間であった。 ・働き方改革の研修も実施した。 ・全職員の平均年休取得は10日を超えた（1/31現在）。
総合的な学校教育の質の向上	学習習慣と基礎学力の定着	・生徒へのアンケート	・生徒の家庭学習の機会を増やす	・特に普通科が連携しての特別企画 ・ICTの効果的な活用	B	・令和3年度（2023年度）に引き続き、左記「特別企画」は数学科の実施にとどまった。 ・ICTの活用はますます促進されてきている。授業の内外はもとより、学校の内外も問わなくなってきており、家庭における生徒の学習の促進にも絶大な効果を発揮している。
	新学習評価規程の制度の向上	・生徒や学校教育のあらゆる状況に対応できるか	・令和5年度（2023年度）以降の修正の必要がないよう精度を高める	・職員会議や職員研修の実施	A	・全教科を挙げて昨年度末に設置した学習評価規程そのものは完璧ではなかったが、本年度運用の中でその弱点が明らかになり、明確な改善点が見つかった。これから年度末にかけて改善していく。 ・運用ははじめの上半期、3度ほどの職員研修を実施することができた。

専門教育	専門教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の授業への満足度</li> <li>研究活動の成果</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業満足80%以上</li> <li>成果報告会の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>記録簿をととして達成度の確認</li> <li>泉町文化祭にて研究内容の報告</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>記録簿をととして達成度の確認</li> <li>泉町文化祭にて研究内容の報告</li> </ul>
	地域との交流活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域との交流活動の状況</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年次、生徒アンケート調査において「できている」の回答80%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門教育で生徒が地域や外部と連携した活動において、計画から実施まで主体的な活動の実践</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>専門教育で生徒が地域や外部と連携した活動において、計画から実施まで主体的な活動の実践</li> </ul>
	学校農業クラブ活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種大会への積極的取組および成績</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種県大会上位入賞</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種競技会代表者への指導体制の確立および指導期間・時間の確保</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種競技会代表者への指導体制の確立および指導期間・時間の確保</li> </ul>
キャリア教育(進路指導)	進路活動支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>より具体的な進路目標の確立を目指す</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全学年進路個別面談の実施</li> <li>進路情報の継続的な提供による具体的な進路先の設定支援による内定100%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路資料提供、個別の面談等による指導</li> <li>キャリアサポーターによる進路支援</li> <li>進路室の開放、進路情報の提供</li> <li>進学ガイダンスの活用</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>個別面談やキャリアサポーターによる進路支援、ハローワークとの連携は円滑に実施しているが、進路未決定者が数名残っている。</li> <li>教室前に進路情報を置き頻繁に閲覧させるよう配慮した。進路相談会やWEBを活用した進路動画などを推奨して啓発に努めた。</li> </ul>
	系統的キャリア教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会的・職業的自立に必要な能力の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年に応じた進路ガイダンス、企業見学、企業交流、インターンシップ、緑の時間、社会人セミナー等を実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業等外部機関との連携(オンラインを含む)</li> <li>インターンシップ、セミナー等の実施</li> <li>職安、雇用整備協会等の事業を積極的に活用</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>雇用整備協会の事業を積極的に活用しながら職業について考える場面を設けた。また地元企業見学や林業視察研修などを活用することで職業観の向上を図った。</li> <li>緑の時間では、行政機関と連携し、直接市役所等を訪問、自ら質問することで、主体的に進路の学びにつながった。</li> </ul>
生徒指導	基本的な生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>校則の遵守</li> <li>道徳モラルの向上</li> <li>基本的な生活習慣の定着</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>挨拶、時間、整容、言葉遣いを整える</li> <li>社会規範の習得、道徳心の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業や行事、全校集会をととした全体指導</li> <li>日常の学校生活の中で個別指導を行う</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>校則の改定について話し合う場面を設けたが、現状を望む声が強かった。校則への理解が出来ると思われる。</li> <li>意図的に服装を乱す生徒はいないが、寝癖がついたままなどの身だしなみへの意識が乏しい生徒が目立ち、指導を行っている。</li> </ul>
	交通安全教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全教育の徹底</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通安全指導の充実</li> <li>自転車及び原動機付自転車の点検実施</li> <li>原動機付自転車通学生の安全運転意識の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>交通事故0件</li> <li>計画的な全体指導</li> <li>個別指導を適宜実施</li> <li>毎月の自転車及び原動機付自転車の整備点検の実施</li> <li>毎学期の原動機付自転車安全講習会の実施</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>原付や自転車は、概ね交通法規を遵守しているが、原付の転倒による自損事故があった。</li> <li>夏季休業中に自動車学校で原付安全講習を実施した。</li> <li>交通安全の講話や、各ホームルームと生徒昇降口に交通安全ポスターの掲示等を通して、日常的な指導を重視した。</li> </ul>

	自治活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校農業クラブや生徒会等において、生徒が自律的・主体的な計画を行い、運営する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年度末の生徒アンケートで「学校行事が充実していた」の回答70%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的を明確に持った学校行事を計画する</li> <li>・自分たちの手で、より良い学校を築いていく自律的精神を育成する</li> <li>・活動の振り返りを行うことで、成果を自信にして次の活動への活力を持たせる</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に学校行事を運営しようという意気込みをよく感じた。</li> <li>・生徒会役員が学校行事で主導的な役割を果たしていた。ただ行うのではなく、行事の前に目標やねらいの共通理解をはかっていた。</li> <li>・体育祭をコロナ禍以前のものに近い形にすることが出来、満足している。</li> <li>・校則改定に対して、当事者意識のある意見を述べる事が出来ていた。</li> </ul>
人権教育の推進	人権意識の涵養	<ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまな人権課題に関心を持ち、あらゆる差別や偏見を許さない態度の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権に配慮した言語環境を整える</li> <li>・人権教育LHRと人権教育講演会の充実</li> <li>・職員研修の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権に配慮した発言の意識高揚と職員研修における検証</li> <li>・人権教育推進委員会で人権教育の指導方法の共通認識を図る</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各学期に人権教育LHRを実施し、生徒の人権意識の高揚を図った。</li> <li>・2学期には「ハンセン病」をテーマに、職員研修と生徒の人権LHRを合同で実施できた。</li> <li>・来年度も各学期で学年毎に実施するように計画したい。</li> </ul>
	推進体制の確立と研修の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員の実践的指導力の向上</li> <li>・教職員の人権意識の醸成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員、生徒の学校評価アンケートにおいて、人権教育の取り組みが「できている」の回答90%以上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員全員が1回以上は校外研修へ参加する</li> <li>・毎年1回の人権レポートを提出する</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全員の研修参加はできなかったが、意欲的に参加していただける体制は整っている。</li> <li>・人権レポートは全ての教職員に提出してもらうことができた。</li> </ul>
	計画的な人権教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熊本県人権教育・啓発基本計画を踏まえた、泉分校の人権教育の計画や人権関係文書等を全教職員へ周知する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育の指導方法等の在り方について「人権教育取り組みの方向」(県教委)の実践に取り組む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権教育推進委員会における年間指導計画の精選</li> <li>・昨年度計画の指導内容改善を図り、より充実した人権教育を実践する</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期 <ul style="list-style-type: none"> <li>1年 インターネットと人権</li> <li>2年 ハラスメントと人権</li> <li>3年 言わない・書かない・提出しない取り組み</li> </ul> </li> <li>・2学期 <ul style="list-style-type: none"> <li>同和問題・ハンセン病・水俣病をローテーションで実施し、3年間で全てを学習するよう計画する。今年度はハンセン病を実施。</li> </ul> </li> <li>・3学期 <ul style="list-style-type: none"> <li>1年 同和問題</li> <li>2年 北朝鮮拉致問題</li> <li>3年 LGBT(性的マイノリティー)</li> </ul> </li> </ul> <p>年間をとおして実施内容を精選しPDCAサイクルを確立させたい。</p>
	命を大切にすることを育む指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自他の生命の尊さや生きることの素晴らしさ等、生徒一人ひとりの自覚を全教職員が一丸となって深める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科・科目において人権教育の視野に立った指導を意識し、命を大切にすることを育む取り組みを行う</li> <li>・言語活動の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・協力をとおしてお互いを尊重し合える態度を育成する指導の実現を目指して、各教科、各科目の連携を充実させる</li> <li>・情報共有</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート調査では命や人権の大切さへの取組状況として、生徒75%・保護者100%・職員は「よくあてはまる」が昨年度より27%増え95%を達成できた。</li> <li>・命に関わる心に不安のある生徒の対応がある場合は、人権教育主任として心を育む指導ができるよう情報共有し連携していきたい。</li> </ul>

いじめの防止等	いじめ問題への取り組みの強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ根絶の取り組みを充実させる</li> <li>・人間関係の構築ができるようにする</li> <li>・相談しやすい環境の設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員のいじめに対する認識を高める研修を計画的に実施</li> <li>・いじめが背景に疑われる重大事態認知件数0件</li> <li>・いじめの問題を自分の問題及び自分たちの問題として考えることができる</li> <li>・悩みを抱えたときに相談できる関係性を作る</li> <li>・他者の気持ちの重要性や多様なコミュニケーションを学ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめに関する職員研修を実施</li> <li>・全校生徒に対して年3回の心のアンケートの実施</li> <li>・心のアンケート実施後に全員と個人面談を実施</li> <li>・心のきずなを深める標語を募集し、優秀者を表彰</li> <li>・クラスごとに心のきずなを深める行動計画を策定</li> <li>・教職員間で生徒情報を日常的に共有</li> <li>・学期始めに教育相談期間を設定</li> <li>・巡回指導の実施</li> <li>・全校集会を実施</li> </ul>	B <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員研修、心のアンケート、全生徒との個人面談、標語、集会の実施はできた。</li> <li>・いじめの認知件数は0である。</li> <li>・いじめ認知件数は0だが、様々な人間関係のトラブルがある。その都度、担任・学年を中心に、心に寄り添う指導がなされている。</li> <li>・生徒が教職員に相談しやすい環境があると判断し、殊更な学期始めの面談は実施しなかった。</li> <li>・クラスごとの行動計画の策定は行わなかったが、互いの気持ちを尊重しようとする言動はよく見られている。</li> <li>・文化コミュニケーション事業を行い、他者とのコミュニケーションについて、体験的・実践的に学ぶことが出来た。</li> </ul>
	特別支援教育の理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育に対する教職員の理解や実践的指導力の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学期毎の校内研修の実施</li> <li>・校外研修会への参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ニーズに応じた校内研修の充実</li> <li>・校外研修会への積極的な参加呼びかけ</li> </ul>	B <ul style="list-style-type: none"> <li>・1学期に2回、2学期に1回、年間合計3回研修を行った。</li> <li>・校外研修会はコーディネーター以外に1名がオンラインの研修に複数回参加した。内容は必要に応じて研修で全教職員と共有した。</li> </ul>
特別支援教育	支援体制の確立	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援が必要な生徒に関する教職員間の共通理解と個々に応じた柔軟な支援</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援が必要な生徒に関する情報の整理</li> <li>・特別支援教育推進委員会を中心とした支援体制の確立</li> <li>・ケース会議の実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員による情報の共有</li> <li>・個別の教育支援計画・指導計画を活用した支援の方向性の確認</li> <li>・コーディネーターによるケース会議の企画・実施</li> </ul>	B <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒理解研修や職員朝礼等で、個々の生徒に関する情報を共有した。</li> <li>・諸計画の閲覧方法を全教職員で共通理解し、活用を促した。また巡回相談員に2回来校してもらい支援策に対する助言をいただき、全教職員で共有した。</li> <li>・スクールソーシャルワーカーを含めたケース会議を、2ケースについて合計2回実施した。</li> </ul>
地域連携(コミュニティスクール等)	泉分校ができる防災型コミュニティスクールの整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>・災害時に臨時避難所を設営する際の教職員の役割確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練を行う中で教職員の役割確認</li> <li>・地域の避難訓練等に参加</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民の方との緊密な協力体制の確立</li> <li>・緊急時用の防災用品の点検・確認</li> </ul>	B <ul style="list-style-type: none"> <li>・土砂災害避難確保計画作成にあたり、泉支所との協力体制の確認を実施した。</li> <li>・緊急時用品等は、年間、二回の賞味期限確認や点検を実施した。</li> </ul>
	泉町の地域住民と交流を図り地域理解に努める	<ul style="list-style-type: none"> <li>・泉町の行事等に生徒及び教職員を派遣する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会や学校農業クラブ等生徒が主体性を持って行事に参加する環境の醸成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お茶まつり、町民文化祭および泉まちづくり協議会主催のイベント、挨拶運動の企画・積極的参加</li> <li>・ボランティア活動</li> </ul>	B <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度は多くの行事、イベントが縮小や変更となる中で、生徒が関われる範囲の中で積極的に活動を行った。</li> </ul>

環境整備	教育環境の整備及び省エネ意識の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日常点検と整備の徹底</li> <li>・省エネに対する意識の高揚</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員、生徒、保護者の「掃除や整理整頓ができている」の回答80%以上</li> <li>・学校全体の電気使用量を前年度比0.5%削減</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内美化活動の推進</li> <li>・落ち着いた学校環境の維持</li> <li>・定期的な整備、点検の実施</li> <li>・定期的に電気使用量を提示し、保健委員を中心にクラスへの呼びかけを行う</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職員、生徒、保護者への学校評価アンケートで「掃除や整理整頓ができています」に対する回答は「当てはまる」、「よく当てはまる」の合算値は、全ての対象において80%以上であった。</li> <li>・保健環境部が毎学期実施する安全点検を元に、施設・設備の改修計画的に実施することができた。</li> <li>・学校全体の電気使用量は前年度比0.5%削減を達成することができた。</li> </ul>
	心身の健康の保持増進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・健康診断後の受診率の向上</li> <li>・SCと連携した健康相談活動の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科受診率50%以上</li> <li>・眼科受診率80%以上</li> <li>・SCの定期的なカウンセリングの実施</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未受診者に対する定期的な個別指導の実施</li> <li>・月1回以上のSCによるカウンセリングの実施</li> <li>・SCを講師とした職員研修の実施</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歯科受診率は1月末時点で56%</li> <li>・眼科受診率は85%を達成した</li> <li>・SCによる生徒のカウンセリングを実施するとともに、職員研修を実施することができた。</li> </ul>

#### 4 学校関係者評価

- (1) 泉町の住民との交流、生徒さんの地域に根ざした授業、活動を良く目にします。やはりなくてはならない分校ですし、生徒さんは泉の宝物です。1年生は入る時は可愛い根が、3年生は卒業する時は立派な根が張り、成長されていかれる姿を目にします。泉町民としてうれしく、ほこらしく想えるのが楽しみです。今後、益々の学校の発展とご活躍を祈ります。
- (2) 現在、(コロナ禍もあり)学校に行く機会がありません。十分な回答ができなくて申し訳ありません。
- (3) お世話になります。学校教育活動いつも大変お疲れ様です。より良い学校教育を目指してください。
- (4) 評価を見ると「働き方改革」について意識改革が進んでいることの表れだと思う。
- (5) いじめ認知件数0件は学校の取組みの成果だと思う。
- (6) 生徒が主体的で意欲的に活躍する様子を多くの方へ伝えることができたと思います。小中高による連携や訪問(中学校)に力を入れておられるので入学希望者も増えることと思います。
- (7) 特別な学校環境で、希望して学びに来た生徒には本当に楽しいんだと感じました。生徒募集の点、中学校での説明会を拝見しました。興味を引く説明だったと思います。先生方の丁寧な対応が今回の出願者数に繋がったと思います。
- (8) 教育目標と重点目標に対し、保護者の理解を得られている(2年連続で100%)事は素晴らしい事です。
- (9) 魅力化発信の点から、HPは保護者も満足されている様で、タイムリーなのは素晴らしい。生徒の様子も伝わりやすくてとても良い。

#### 5 総合評価

本年度の学校教育目標から5つの重点目標を掲げた。各重点目標の評価は次のとおりである。

##### (1) 確かな学力の育成と個に応じた指導の充実

###### ① 確かな学力の育成について

- (ア) 昨年度からの一人一台端末の導入により、教科のICT化が急速に高まった。生徒の学びに対する意欲は確実に高まったものとする。学校情報化認定にも繋がった。
- (イ) 泉分校の学習内容は、生徒の興味関心を高める取組みや基礎学力の定着に向けた取組みも評価されている。専門教科における実習のあり方や学習内容等が課題である。
- (ウ) 進路指導・学習指導等に対する保護者からの評価は非常に高い。生徒からの評価は学年が上がるにつれて高くなる。今後、更なる基礎学力の定着に向けた取組みを強化する。
- (エ) 基礎診断ツールの活用等には、改善の余地が見られた。

###### ② 個に応じた指導の充実について

- (ア) 親身になった進路指導への取組みについては、教職員や生徒(学年)によっては全てが高い評価となった。保護者も9割以上の高い評価となった。
- (イ) 特別支援教育に関しては、職員研修の実施や外部の専門機関等との連携などが図られ、生徒・保護者アンケートにおいても概ね高い評価となっている。今年度から学習サポーター(特別支援教育支援員)が配置され、より充実した教育環境の構築につながった。
- (ウ) 今年度は学校の活動をとおして以下の受賞と特色ある活動を行うことができた。このような取組みについて、多くのマスコミにも取り上げられた。しかし、このことは単なる泉分校の情報発信で終わるものではなく、生徒にとって学習の動機づけや学習意欲を向上させることが目的である。
  - ・ 県農業クラブ年次大会で、プロジェクト発表意見(Ⅲ類)において優秀賞を受賞
  - ・ 県高等学校弁論大会で、最優秀賞等(1位と4位)を受賞、九州大会佐賀大会に参加
  - ・ 地域特産を活かし「第2回ジビエ料理甲子園」参加
  - ・ 泉地域「ゆず収穫ボランティア」

##### (2) キャリア教育の推進と個性を生かす進路指導の充実

###### ① キャリア教育の充実について

- (ア) 外部機関の協力を得ての企業見学等が系統的に行われ、生徒の職業観や勤労観の育成に繋がっていると考えられる。今年度はインターンシップが一部実施できなかったが、生徒アンケートでは、現場実習や校外研修への取組みについての評価は低くない。
- (イ) 専門教科の実習において、他者を理解することや協働することを授業内で体験的に学んでいる。今年度は全生徒でのキャンプ実習や地域の小学生との交流学習を実施した。
- (ウ) コロナ禍であり充分ではなかったが、八代市泉支所や地域のコミュニティセンターと連携し、イベントに参加した。地域の課題を生徒が主体的に解決を図る学習に繋がった。また、それを校外で発信する機会も得られた。



## ②個性を生かす進路指導の充実について

- (ア) インターンシップにおいては、各生徒の進路希望を踏まえた事業所等での実習を行う予定で準備を進めていたが一部中止となった。充分ではなかったが、この期間をととして生徒が自らの職業適性や進路意識の向上が期待できる機会となった。
- (イ) ハローワークとの連携により、より生徒の実態に応じた個別の進路指導や支援が実施することができた。ジョブコーチや就職先への支援移行の手続きも行われている。
- (ウ) 生徒及び保護者アンケートから、親身な進路指導については概ね満足できるという結果であった。

## (3) 道徳教育の充実と命を大切に作る心の育成

### ①道徳教育の充実

- (ア) 道徳性の育成について「全く当てはまらない」と回答した生徒は1名いたが昨年度に比べ減少した。保護者・教職員のアンケートには「当てはまる」「よく当てはまる」の回答が9割を超えた。
- (イ) 年間をとし人権に関する職員研修を各学期実施した。人権教育主任を中心に人権について深く学ぶ機会を得た。次年度も更に人権意識を高める環境をつくりたい。

### ②命を大切に作る心の育成

- (ア) 「命」や「人権」の大切さについて丁寧な指導をしているか、の問いに対しては生徒・保護者・教職員のアンケートで高く評価された。
- (イ) いじめ問題等の未然防止のアンケートについて2年生の生徒評価は低かった。全ての生徒・保護者から高く評価される環境、いじめのない環境を構築するために改善を図りたい。いじめ認定は0件であった。

## (4) 国家・社会の形成者としての資質の育成と国際社会に生きる日本人としての自覚を醸成

### ①国家・社会の形成者としての資質の育成

地域の歴史や文化を学ぶ校外学習の実施や地域のコミュニティセンターと連携してイベント実施などに生徒主体での取り組みができた。地域ボランティアも実施できた。文化継承活動にも従事した。

### ②国際社会に生きる日本人としての自覚を醸成

対外的な行事等の大半が中止や延期、規模縮小となった。生徒の活動も制限された。Webでの交流など移動を伴わない交流のあり方等の工夫が必要である。ICTが大きく活躍した。制限緩和に向けた動きも一部見られた。

## (5) 体力の向上、豊かなスポーツライフの継続、心身の健康の保持増進及び安全教育の充実

### ①体力の向上、心身の健康の保持増進について

- (ア) 課題を抱える生徒への、教職員による早目の声掛けや面談、家庭訪問等を実施し、課題の早期発見、解決を図っている。継続的な指導が必要である。
- (イ) SCやSSW、関係機関との積極的な活用と連携により、課題の早期解決に取り組むことができたことから、これらの取り組みを充実させる。

### ②安全教育の充実について

- (ア) 避難訓練(火災、津波)を各学期で実施した。毎日、教職員で通学路の安全点検を実施した。
- (イ) 交通安全教育の取り組みで、今年度は自動車学校の先生からの講話が実施され、交通安全への意識向上に繋がった。
- (ウ) 生徒が自他の健康や生命を守るための安全教育を、各部で行うものでなく、総合的に捉える指導のあり方が必要である。

## 6 次年度への課題・改善方策

### (1) 職員の働き方改革

- ①昨年度に引き続き、校務分掌の見直しを行った。依然として教職員の負担感が強い。時間外勤務時間については、毎月右肩下がりの傾向を示すが、昨年度の同時期に比べ時間外業務時間が増加している。今後も業務の効率化や学校行事の見直し、出張の精選等をさらに進める。
- ②校務分掌内での協力体制づくりや業務量の平準化を主任主事を中心に取り組むことを目標としており今年度も概ねなされているという評価であり、さらに取り組みを進めていきたい。更なる組織力の強化。
- ③各教職員がそれぞれの働き方・ワークライフバランスを再検証し、個々の意識改革を促進する。組織やチームでの取り組みができる環境を更に構築させる。

### (2) 生徒募集の組織化及び効率化

- ①中学1年生、2年生からの個別の学校訪問が多く見られた。丁寧で充実した対応を心掛ける。今年度は昨年度比300%の出願者数であったが、今後も更なる出願者増に向け取り組みたい。
- ②今年度は2回の中学生体験入学を実施した。例年にない参加者であり、本校の特色を直接伝える機会となった(91%up)。また、中学校の先生が多く参加していただいた。今後も継続したい。
- ③新年度の学校パンフレットを早期作成し、1学期から始まる学校説明会時に配布できるようにする。
- ④学校ホームページをさらに充実させる。
- ⑤生徒の学習成果の発信(発表会等への参加、新聞等への取材依頼)を積極的に行う。
- ⑥効率性を高めるために「チーム」で対応し、優先順位をつけた生徒募集を実施する。
- ⑦出願者数30名を目指す。

### (3) 教育課程・学校設定科目の見直し

- ①本度からの新学習指導要領への移行に向け、現状にあわせた評価規定を充実させる。
- ②学校設定科目を調整した新教育課程における専門教育内容の見直し。
- ③評価規程や評価方法の検証を行い、評価の安定に繋げる。

### (4) 特別支援教育の充実と個々の生徒に応じた教育の充実

- ①特別な支援を要する生徒や課題を抱える生徒への合理的な配慮や支援について、教職員のスキルアップを図るとともに、組織的に取組める指導や支援の体制づくりをより一層進めていく。
- ②各生徒の進路実現に向け、外部の専門機関等と連携しながら1年次より系統的に取り組む。
- ③各生徒の学習到達度に応じた学習指導の充実を図る。
- ④専門機関や外部との連携を更に図り、「チーム」として対応できる組織を構築する。ケース会議の充実を図る。
- ⑤特別支援教育支援員(学習サポーター)との連携強化。更なる学習環境の改善。

### (5) 指導力向上(学習指導・生徒指導)

- ①校内での研究授業を各教師が、年間1回以上実施する。
- ②他校の公開授業に各教師が、年間1回以上参加する。
- ③ICTに関する指導力を底上げする。
- ④いじめ問題等の職員研修を充実させる。
- ⑤生徒に寄り添った生徒指導力を身に付けるための校内研修を実施する。
- ⑥毎月1回以上の職員研修の機会を確保する。